

文学座

怪談

牡丹燈籠

原作／三遊亭円朝
脚本／大西信行
演出／鶴山 仁

よみがえ
名作が新たな演出で甦る！
思わず引き込まれる
幻想的な舞台



あらすじ

落語家円朝が高座で披露する怪談断で幕があがる。浪人・萩原新三郎に焦がれ死んだ旗本の娘・お露は、後を追った乳母・お米と牡丹燈籠を携え、新三郎と嬉しい逢瀬を重ねるが、二人が幽霊と知った新三郎は家中に死霊除けのお札を張り巡らせる。お露を不憫に思うお米は、新三郎の店子で下男の伴蔵に「お礼剥かし」を頼みこむ。伴蔵は幽霊を恐れながらも妻・お峰に焚きつけられ、百両との引き

換えを条件にお札を剥がすと、牡丹燈籠は嬉し気に高窓に吸い込まれていった。大金を手にした伴蔵は金を元手に新しい生活を手に入れ、奉行人から大店の主に変身する。愛人を持ち小遣いを渡せるほどに。口うるさい女房を殺して黙らせるほど非道の人に。悲しいことに、人は金があると変わるのだ。日常も人間関係も失った伴蔵が最後に失うものとは…。
三遊亭円朝の語る落語は怪談ながら人間の哀しさまでも味わえます。

●岡山市民会館

11月24日(水) 7時

25日(木) 12時30分

〔26日〕28日 休演

29日(月) 7時

30日(火) 1時

※上演時間 2時間15分(予定)

■西大寺市民劇場例会

●西大寺公民館大ホール

11月26日(金) 6時45分

27日(土) 1時

キャスト



お国 源次郎 伴蔵 とも お米/お峰/夫人 お露/おたね 萩原新三郎 円朝/志文/久蔵
山崎美貴さん 沢田冬樹さん 早坂直家さん 富沢亜古さん 大野香織さん 越塚学さん 大原康裕さん

飯島平左衛門ほか…石川 武
お竹/お梅……………柴田美波
お六……………つかもと景子
定吉/ぼん太……………相川春樹
お絹……………高柳絢子

スタッフ

美術……………乗峯雅寛
照明……………古宮俊昭
音響……………秦 大介
衣裳……………前田文字
殺陣所作指導……………澤村國矢
舞台監督……………寺田 修
演出補……………水野玲子
制作……………友谷達之

《江戸言葉あれこれ》

この作品に出てくる、現代ではあまり使われなくなつた言葉を紹介します。
【乙りき】一風変わつていてしゃれていること。
【おつもり】酒席で、その杯限りで終わりにすること。また、その杯。
【凡夫盛んに神崇りなし】たとえ平凡な人間といえども、勢いに乗っている者には神や仏の力も及ばない。
【リヤンコ】江戸時代、武士を嘲つて読んだ語。

怪談だけど怖くない。胸を張って誘って！

魅力に迫る会。富沢亜古さんを迎えて！

女優・富沢亜古さん、制作・友谷達之さんを迎えて魅力に迫る会を10月13日、天神山文化プラザで開催。「怪談牡丹燈籠」の面白さや、演劇にかける思いなどを語つていただきました。

新しくよみがえつた芝居

1974年、岡山市民劇場例会会で杉村春子さん、高橋悦史さんで「怪談牡丹燈籠」を迎えました。杉村さん亡き後、1998年に上演されてから、ずっと「怪談牡丹燈籠」は文学座の中で眠っていたのはなぜか？

〈友谷〉和物の文学座と

言われていますが、それを上演するには、着物やかつらを借り、着付けのプロをお願いするので、大変経費がかかります。財政的になかなか再上演できずにいました。九州ブロックから「ぜひやってほしい」との申し出があり、ステージ数も確保できたので、2018年鶴山仁演出で新しく生まれ

「この芝居の見どころは

〈富沢〉三遊亭円朝の傑作創作落語を、大西信行さんが杉村春子さんに頼まれて、文学座のために脚色しました。落語調のせりふ、江戸言葉も出ますが、分かりにくいことはないです。

「怪談牡丹燈籠」は3組の男女の愛憎劇。私は、お露の乳母お米役、伴蔵の妻お峰役、最後の場面に円朝と会話する婦人役、この3役を早変わりして演じます。ガラリと雰囲気も変わるので、



富沢亜古さん

そこもお楽しみに。

この芝居は伴蔵、お峰を中心に展開します。その2人のやりとりが見どころです。仲のいい夫婦だったのに、お金に目がくらんで、

最後には殺し合うまでに。斬新な舞台美術や照明も見どころのひとつ。オールデコ調の美しい装置です。お国と源次郎が死ぬ場面は、蛭が飛び交い幻想的です。

〈友谷〉9月から静岡県ブロックをこの芝居で回りました。どこの市民劇場も会員数が減つて大変です。文学座は東京公演してもせいぜい10ステージ。後は、演劇鑑賞会の例会となり、ステージを重ねていくことで、役者が育ち、芝居も育っていきます。劇団と鑑賞会は車の両輪、大切な関係です。演劇は不急ではありませんが、役者と観客で芝居は創られていきます。胸を張って誘って下さい。

〈富沢〉お峰に決まった時は嬉しかったです。杉村春子演じるお峰の舞台ビデオを100回以上観ました。より良い芝居にして11月に参ります。1人でも多くの方に観てもらいたいです。幽霊が怖いという方には「怖くないよ」と伝えてください。人の方が怖いかもね。(文責 川谷村典子)